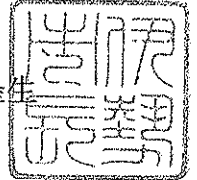




国土交通省道路局長 様

19交第0098号
平成19年5月8日

伊勢市長 森下隆生



中期的な計画の作成にあたっての意見について

時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は、交通行政に対し、格別のご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、表題の件につきまして、別紙のとおり提出させていただきますのでよろしくお願いたします。

中期な計画の作成にあたっての意見について

○今後の道路政策や道路の整備・管理について

1. 重点化を進める上で特に優先度の高い政策
2. 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと
3. その他、道路政策や道路の整備管理全般に関する意見

【中期計画に関する伊勢市の現状・課題】

■伊勢神宮を核として、様々な歴史・文化資源や観光資源を有する伊勢市では、年末・年始や休祝日に、県内外から多くの人々が訪れています。しかしながら、多くの来訪者が自動車を利用しているために、伊勢市に繋がるアクセス道路や、市内道路の各所で渋滞が発生し、このことが、住民の交通環境の悪化に結びついています。

また、今後においても平成 25 年神宮式年遷宮を控え、来訪者の増加やそれに伴う交通環境の悪化が予想されるなど、早急に対策を講じる必要があります。

他方で、交通渋滞などの大きな要因となる来訪者の増加は、伊勢地域の活性化という点において歓迎すべきことであり、また、伊勢市が目指す「観光が輝き・産業の元気なまち」を推進する上でも、更なる誘客を図っていきます。

したがって、伊勢市においては、基幹道路やバイパス道路の整備の推進とともに来訪者の増加を見込んだ交通システムの見直し整備など、近々に対応可能な道路政策が求められています。

【今後の道路政策や道路の整備・管理について】

1. 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

■前述の現状・課題等に対応する政策として、交通容量を拡大させる基幹道路やバイパス道路整備に大きな効果が期待されるとともに伊勢市としては、比較的早期に実現可能な政策としてTDMを推進し、交通量の抑制を図っていきます。

そのために大量輸送機関である公共交通の利用促進に重点を置き、具体的には、年末年始において実績のあるパーク&バスライドの確立を目指します。

したがって、重点的かつ優先的に交通結節点の整備、バス専用・優先レーンの整備などが必要であると考えます。

また、環境にやさしい交通システムとして、自転車のまちプロジェクトを進めます。

2. 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

■効率化を進めるにあたっては、各交通機関のネットワークを強化し公共交通の利便性向上を図るとともに既存施設の活用や充実が重要であると考えます。

交通ネットワークの強化については、個々の利益追求ではなく、利用者の視点に立ち民間各社や行政が一体となった取り組みで相乗効果を上げることを重視すべきであると考えます。

また、既存施設の有効活用・充実については、既存の道路網の交通流を最適ルートへ誘導することで交通量を分散させ渋滞の緩和や平準化を図ることとし、具体的には、交通情報発信システムの強化や信号コントロールが効率的かつ有効であると考えます。

3. その他、道路政策や道路の整備管理全般に関する意見

■道路政策は、来訪者交通に視点を置きがちであるが、住民生活に配慮した安全な歩行者空間や交流の場としての道路整備も重要であります。

また、自動車交通を公共交通やパーク&バスライド・サイクルライドへ転換させることは、交通量の抑制だけでなく、来訪者交通を通過型から滞在・周遊型にし、更なる地域の活性化に繋がっていきます。そのためにも訪れる人と迎える人が共に豊かさを実感できる道路として、歩行者・自転車道の整備が必要であると考えます。

このように伊勢市の道路政策の方向性としては、多大な交通需要に対して単に交通容量を増大させるのではなく、パーク&ライドなどのTDM施策を中心とした交通量の抑制を目指しています。

しかし、TDM施策は、比較的遠距離交通を中心とした施策であるため、伊勢市周辺の地域住民を中心とした近距離交通対策も行う必要があります。

伊勢市には、当市と中勢地域とを分断する形で1級河川宮川が流れており、現状としてそれを繋ぐ道路網（橋）が整備されておらず、特に県道鳥羽松阪線（度会橋）とその上流の県道玉城南勢線（南伊勢大橋）とは約7.8kmもあるなど、交通の円滑化を図るための基本的なインフラ整備が不足しています。

このことから、交通分断地域への架橋など基本的なインフラ整備とTDM施策とあわせることで、来訪者や住民の様々な交通に対応した円滑で快適な移動が実現できると考えます。